

高田昭正 教授 略歴・主な業績

略 歴

略 歴

- 1950年 3月18日 大阪府大阪市生まれ
- 1968年 3月 大阪府立市岡高等学校卒業
- 1969年 4月 大阪市立大学法学部入学
- 1973年 3月 大阪市立大学法学部卒業
- 1973年 4月 大阪市立大学大学院法学研究科修士課程入学
- 1975年 3月 大阪市立大学大学院法学研究科修士課程修了（法学修士）
- 1975年 4月 大阪市立大学大学院法学研究科後期博士課程入学
- 1976年10月 ドイツ学術交流会（DAAD）奨学生としてドイツ・フライブルク大学に留学（～1977年9月）
- 1977年 9月 大阪市立大学大学院法学研究科後期博士課程中途退学
- 1997年 3月 ドイツ・マインツ大学に海外出張（～1997年9月）
- 2003年 9月 博士（法学）（大阪市立大学）

職 歴

- 1977年10月 岡山大学法文学部講師
- 1980年 4月 岡山大学法学部助教授
- 1988年 4月 岡山大学法学部教授
- 1990年 4月 大阪市立大学法学部教授
- 1998年 4月 大阪市立大学評議員（～1999年3月）
- 1999年 4月 大阪市立大学法学部長（～2000年3月）
- 2000年 4月 大阪市立大学評議員（～2001年3月）
- 2001年 4月 大阪市立大学大学院法学研究科・法学部教授（改組に伴う身分変更）
- 2001年 4月 大阪市立大学教務部長（～2003年3月）
- 2012年 3月 大阪市立大学名誉教授
- 2012年 4月 立命館大学大学院法務研究科教授（～現在に至る）

所属学会と主な社会的活動

日本刑法学会 (1975年5月～現在に至る。2000年5月～2003年5月まで理事)

民主主義科学者協会法律部会 (1975年5月～1997年3月)

主な社会的活動

雑誌「季刊刑事弁護」編集委員

雑誌「法律時報」編集委員

大阪弁護士会網紀委員会委員

大阪弁護士会懲戒委員会委員

大阪府精神医療審査会委員

主な業績

単 著

『刑事訴訟の構造と救済』

(成文堂) (1994年5月)

『被疑者の自己決定と弁護』

(現代人文社) (2003年5月)

『基礎から学ぶ刑事訴訟法演習』

(現代人文社) (2015年10月)

共編著書

『現代刑事訴訟法』

村井敏邦編著

大出良知, 川崎英明, 白取祐司, 新倉修と共著

(三省堂) (1990年4月)

『現代刑事訴訟法〔第2版〕』

村井敏邦編著

大出良知, 川崎英明, 白取祐司, 新倉修と共著

(三省堂) (1998年4月)

『転換期の刑事法学』〔井戸田侃先生古稀祝賀論文集〕

浅田和茂, 久岡康成, 松岡正章, 米田泰邦と共編

(現代人文社) (1999年10月)

『法科大学院ケースブック 刑事訴訟法』

加藤克佳, 川崎英明, 後藤昭, 白取祐司, 村井敏邦と共編著
(日本評論社)〔初版〕(2004年4月)
〔第2版〕(2007年4月)

『新版 刑事弁護』

大出良知, 神山啓史, 坂根真也と共編
(現代人文社)(2009年10月)

『改革期の刑事法理論』〔福井厚先生古稀祝賀論文集〕

浅田和茂, 葛野尋之, 後藤昭, 中川孝博と共編
(法律文化社)(2013年6月)

『浅田和茂先生古稀祝賀論文集 [上巻] [下巻]』

井田良, 井上宜裕, 白取祐司, 松宮孝明, 山口厚と共編
(成文堂)(2016年10月)

論 文

「一事不再理の客観的範囲 (一) (二・完) ——英米法を中心として——」

大阪市立大学法学雑誌23巻1号 p. 68 (1976年9月)

大阪市立大学法学雑誌23巻2号 p. 68 (1976年11月)

「西ドイツ刑事訴訟法一九七四年改正管見

——「刑事訴訟法改正第一法律草案」理由書総論仮訳(六) = 解説——」

大阪市立大学法学雑誌23巻4号 p. 142 (1977年3月)

「西ドイツにおける刑訴法改正と弁護権の制限」

法律時報50巻3号 p. 39 (1978年3月)

「西ドイツにおける弁護士懲戒の法制」

自由と正義29巻11号 p. 89 (1978年10月)

「不利益変更禁止の原則——ドイツ刑訴法における生成と変容——」

岡山大学法学会雑誌29巻1号 p. 1 (1979年7月)

「西ドイツ刑事訴訟法改正における検察官と弁護人

——一九七五年改正を中心として——」

岡山大学法学会雑誌29巻3・4号 p. 65 (1980年3月)

- 「イギリス刑事訴訟における不利益変更禁止
——当事者主義的上訴の一考察として——」
岡山大学創立三十周年記念論文集『法学と政治学の現代的展開』
(有斐閣) p. 317 (1982年2月)
- 「西ドイツの犯罪捜査——一九七四年改正後の捜査構造について」
法律時報54巻11号 p. 128 (1982年11月)
- 「最近の刑事裁判の動向 (上) (下) ——刑事訴訟法を中心として——」
法と民主主義177号 p. 24 (1983年5月)
法と民主主義179号 p. 34 (1983年7月)
- 「無罪事件と国家賠償——最近の三判決をめぐって」
①東京地判昭和五九・六・二五 ②同五九・六・二六 ③同五九・六・二九
ジュリスト822号 p. 39 (1984年10月)
- 「上訴・差戻審の検察活動の制限
——アメリカ刑事訴訟の人権論を中心として——」
岡山大学法学会雑誌34巻2号 p. 27 (1984年11月)
- 「刑事裁判の現状と課題」
岡山大学法学会雑誌35巻3・4号 p. 409 (1986年3月)
- 「覚せい剤事犯の多発化と刑事訴訟法理論」(小早川義則と共著)
刑法雑誌27巻2号 p. 176 (1986年9月)
- 「西ドイツにおける被疑者の強制的取調べ」
岡山大学法学会雑誌36巻3・4号 p. 495 (1987年3月)
- 「警察捜査とその濫用規制」(原野翹と共著)
法学セミナー増刊『総合特集シリーズ36 警察の現在』
p. 258 (1987年7月)
- 「訴訟能力を欠く被告人と刑事手続
——岡山地裁昭和62年11月12日判決を契機として」
ジュリスト902号 p. 39 (1988年2月)
- 「合衆国の人身保護令状 (一) (二) (三・完)
——刑事訴訟における法的救済として——」
岡山大学法学会雑誌38巻4号 p. 1 (1989年3月)
岡山大学法学会雑誌39巻1号 p. 35 (1989年7月)
岡山大学法学会雑誌39巻4号 p. 203 (1990年3月)

- 「戦後刑事司法の軌跡——その担い手達の活動」(浅田和茂・川崎英明と共著)
ジュリスト臨時増刊930号『刑事訴訟法40年の軌跡と展望』
p. 129 (1989年3月)
- 「捜査の適正化 逮捕・勾留」
法律時報61巻10号 p. 12 (1989年9月)
- 「アメリカにおける聴覚障害者の刑事手続き
——黙秘権告知の問題を中心として」
法と民主主義242号 p. 26 (1989年11月)
- 「三菱石油重油流出事件と長期裁判問題」
刑法雑誌30巻2号 p. 151 (1989年11月)
- 「イギリスにおける自白の任意性
——一九八四年以前の『誘導による自白』——」
高田卓爾博士古稀祝賀論文集刊行委員会編
『高田卓爾博士古稀祝賀 刑事訴訟の現代的動向』
(三省堂) p. 357 (1991年4月)
- 「少年保護事件における裁判官忌避の問題」
刑法雑誌33巻2号 p. 207 (1993年5月)
- 「ドイツ刑事訴訟における起訴前の国選弁護」
自由と正義44巻7号 p. 33 (1993年7月)
- 「刑事訴訟にとっての違憲審査の意義」
ジュリスト1037号 p. 78 (1994年1月)
- 「情況証拠と合理的疑いを超える証明——アメリカ法を中心として——」
大阪市立大学法学雑誌40巻4号 p. 254 (1994年3月)
- 「日本の刑事司法における国民参加」
石部雅亮, 松本博之, 児玉寛編
『法の国際化への道——日独シンポジウム——』
(信山社) p. 260 (1994年3月)
- 「ドイツ刑事訴訟における参審制
——『刑事司法への国民参加』論の素材として——」
刑法雑誌33巻4号 p. 82 (1994年7月)

„Die Laienbeteiligung im japanischen Strafverfahren“

Karl Kroeschell und Albrecht Cordes (Hrsg.)

Vom nationalen zum transnationalen Recht:

Symposion der rechtswissenschaftlichen Fakultäten

der Albert-Ludwigs-Universität Freiburg

und der Städtischen Universität Osaka

(C. F. Müller) p. 183 (1995年 1 月)

「刑事法律扶助の課題——被疑者の公選弁護制度をめざして——」

自由と正義46巻 6 号 p. 15 (1995年 6 月)

「保護処分決定に対する抗告と抗告審決定の効力」

法律時報67巻 7 号 p. 31 (1995年 6 月)

「被疑者取調べの変革を目指して」

日本弁護士連合会編

『平成 6 年版 日弁連研修叢書 現代法律実務の諸問題』

(第一法規) p. 597 (1995年11月)

「刑事弁護の役割」

法学セミナー502号 p. 78 (1996年10月)

「白鳥決定と総合評価の判断構造」

季刊刑事弁護 9 号 p. 139 (1997年 1 月)

„Die Selbstbestimmung des Beschuldigten im
japanischen Strafverfahren— Schweigen oder Gestehen?“

Dieter Leipold (Hrsg.)

Selbstbestimmung in der modernen Gesellschaft

aus deutscher und japanischer Sicht:

Symposion der rechtswissenschaftlichen Fakultäten

der Albert-Ludwigs-Universität Freiburg

und der Städtischen Universität Osaka

(C. F. Müller) p. 137 (1997年 1 月)

「刑事訴訟における被疑者の自己決定——黙秘か自白か」

松本博之, 西谷敏編

『現代社会と自己決定権——日独シンポジウム——』

(信山社) p. 186 (1997年 5 月)

- 「ドイツにおける実効的捜査弁護
——被疑者供述の証拠化と取調べ——」
井戸田侃，庭山英雄，光藤景皎，小田中聰樹，大出良知編著
『竹澤哲夫先生古稀祝賀記念論文集 誤判の防止と救済』
(現代人文社) p. 153 (1998年7月)
- 「捜査弁護は何をすべきか——実効的捜査弁護の課題と方法」
季刊刑事弁護15号 p. 23 (1998年7月)
- 「通信傍受法案の問題点」
自由と正義49巻8号 p. 94 (1998年8月)
- 「ドイツの捜査弁護報酬と被疑者国選」
法と民主主義333号 p. 26 (1998年11月)
- 「接見指定制度の問題性と違憲性 物理的不能説から違憲説へ」
自由と正義50巻2号 p. 120 (1999年2月)
- 「刑事弁護の発展と刑事訴訟改革 捜査弁護を中心に」
法律時報71巻3号 p. 9 (1999年3月)
- 「ドイツの捜査弁護」
刑法雑誌39巻1号 p. 77 (1999年7月)
- 「身体拘束と証拠開示
——ドイツにおける被疑者勾留の証拠的基礎の開示——」
浅田和茂，高田昭正，久岡康成，松岡正章，米田泰邦編
『井戸田侃先生古稀祝賀論文集 転換期の刑事法学』
(現代人文社) p. 113 (1999年10月)
- 「被疑者国公選弁護制度の理念をどう実現するか」
季刊刑事弁護21号 p. 55 (2000年1月)
- 「ポリグラフ検査と被疑者の自己決定権」
季刊刑事弁護23号 p. 102 (2000年7月)
- 「国民の司法参加と高木案——数倍の『裁判員』による独立評決」
月刊司法改革20号 p. 34 (2001年5月)
- 「情況証拠による推断過程の検討」
季刊刑事弁護27号 p. 39 (2001年7月)

「接見交通権の実効的保障をめざして」

光藤景皎先生古稀祝賀論文集編集委員会編

『光藤景皎先生古稀祝賀論文集 上巻』

(成文堂) p. 281 (2001年12月)

「被疑者取調べと自己決定」

刑法雑誌41巻3号 p. 72 (2002年4月)

「被害者保護と刑事手続——問題状況——」

刑法雑誌42巻1号 p. 79 (2002年7月)

「直接主義・口頭主義の実質化」

季刊刑事弁護33号 p. 53 (2003年1月)

「法学研究者の社会的責任

——日本の法教育・法学教育・法曹養成教育との関連で」

阿部昌樹, 佐々木雅寿, 平覚編 『グローバル化時代の法と法律家』

(日本評論社) p. 337 (2004年2月)

「黙秘権について 歴史的意義と現代的意義」

季刊刑事弁護38号 p. 64 (2004年4月)

「被疑者国選弁護制度と刑事弁護」

法律時報76巻10号 p. 46 (2004年9月)

„Die fundamentalen Probleme des Japanischen Strafprozesses“

Recht in Japan, Heft14 p. 21 (2006年12月)

「刑事司法の改革課題——『日本の特色』論との関連で」

三井誠, 中森喜彦, 吉岡一男, 井上正仁, 堀江慎司編集委員

『鈴木茂嗣先生古稀祝賀論文集 [下巻]』

(成文堂) p. 1 (2007年5月)

「裁判員制度と刑事手続——裁判員制度は何を変えるか——」

犯罪学雑誌73巻3号 p. 63 (2007年6月)

「覚せい剤自己使用事犯における訴因の明示」

大阪市立大学法学雑誌55巻1号 p. 277 (2008年8月)

「裁判員裁判によって裁判官を変えられるか」

季刊刑事弁護59号 p. 15 (2009年7月)

- 「訴因変更の可否——最高裁判例における『公訴事実の同一性』の判断基準」
浅田和茂，石塚伸一，葛野尋之，後藤昭，福島至編
『村井敏邦先生古稀記念論文集 人権の刑事法学』
(日本評論社) p. 501 (2011年9月)
- 「訴因変更の要否」
井上正仁，酒巻匡編『三井誠先生古稀祝賀論文集』
(有斐閣) p. 555 (2012年1月)
- 「先行手続の違法と証拠排除
——『毒樹の果実』論と『違法の承継』論」
立命館法学345・346号 p. 398 (2013年3月)
- 「伝聞概念の一素描」
浅田和茂，葛野尋之，後藤昭，高田昭正，中川孝博編集委員
『福井厚先生古稀祝賀論文集 改革期の刑事法理論』
(法律文化社) p. 307 (2013年6月)
- 「刑事免責制度と被告人の証人適格」
川崎英明，三島聡編著
『刑事司法改革とは何か 法制審議会特別部会「要綱」の批判的検討』
(現代人文社) p. 124 (2014年9月)
- 「間接事実にもとづく有罪認定の準則・覚書」
浅田和茂，上田寛，松宮孝明，本田稔，金尚均編集委員
『生田勝義先生古稀祝賀論文集 自由と安全の刑事法学』
(法律文化社) p. 631 (2014年9月)
- 「狭義の択一的認定と訴因対象説」
井田良，井上宜裕，白取祐司，高田昭正，松宮孝明，山口厚編集委員
『浅田和茂先生古稀祝賀論文集 [下巻]』
(成文堂) p. 371 (2016年10月)
- 判例評釈
- 「再審理由としての証拠の明白性——白鳥事件(最一小決昭和50年5月20日)」
平野龍一，松尾浩也，田宮裕編
別冊ジュリスト74号『刑事訴訟法判例百選 [第四版]』
p. 248 (1981年10月)

- 「調書を疑う, そして調書裁判を疑う
〈大阪高槻選挙違反事件/大阪地判一九九一年三月四日〉
法学セミナー441号 p. 64 (1991年9月)
- 「接見指定の要件と手続 (最三小判平成3年5月10日)」
ジュリスト臨時増刊1002号『平成3年度重要判例解説』
p. 171 (1992年6月)
- 「報道機関に対する搜索・差押 (最二小決平成2年7月9日)」
松尾浩也, 井上正仁編
別冊ジュリスト119号『刑事訴訟法判例百選〔第六版〕』
p. 48 (1992年11月)
- 「少年保護事件における不利益変更禁止
——調布駅前事件第一審判決 (東京地八王子支部判平成7年6月20日)」
判例評論449号 [判例時報1564号] p. 73 (1996年7月)
- 「接見交通 (1) —— 一般的指定 (最二小判平成3年5月31日)」
松尾浩也, 井上正仁編
別冊ジュリスト148号『刑事訴訟法判例百選〔第七版〕』
p. 74 (1998年8月)
- 「強制採尿 (最一小決昭和55年10月23日)」
井上正仁編
別冊ジュリスト174号『刑事訴訟法判例百選〔第八版〕』
p. 66 (2005年3月)
- 「公判途中で否認に転じた被告人に対し, 否認前の自白を
前提とした弁護人の最終弁論の当否 (最三小決平成17年11月29日)」
法律時報79巻7号 p. 128 (2007年6月)
- 「現行犯逮捕 (1) —— 明白性 (京都地決昭和44年11月5日)」
井上正仁, 大澤裕, 川出敏裕編
別冊ジュリスト203号『刑事訴訟法判例百選〔第9版〕』
p. 28 (2011年3月)
- 「違法収集証拠として尿鑑定書を排除し, 無罪を
言い渡した事例 (松山地判平成22年7月23日)」
法律時報87巻1号 p. 125 (2015年1月)

事例研究

- 「世界の未決拘禁法2 ベルギー／オランダ」(能勢弘之と共著)
法律時報49巻8号 p. 98 (1977年6月)
- 「世界の刑事再審法8 エジプト」
判例タイムズ363号 p. 65 (1978年9月)
- 「財田川事件高松地裁再審開始決定」
ジュリスト702号 p. 42 (1979年10月)
- 「袴田事件——物証と自白の『怪』」(山本正樹と共著)
法律時報64巻8号 p. 46 (1992年7月)
- 「接見交通権の各国比較——ドイツ」
法律時報65巻3号 p. 59 (1993年3月)
- 「フランクフルトの刑事当直弁護
——クレーネルト＝シュトルティンク弁護士に聞く」
季刊刑事弁護12号 p. 10 (1997年10月)
- 「少年冤罪事件の救済 調布駅南口事件における司法の責任と課題」
法律時報70巻1号 p. 2 (1998年1月)
- 「無罪と勾留 外国人被告人の権利と入国管理政策」
法律時報72巻10号 p. 1 (2000年9月)
- 「地下鉄サリン事件 事件・裁判の概要」
- 「地下鉄サリン事件 刑事訴訟法的論点 自首・別件逮捕・刑事弁護」
法学セミナー551号 p. 8, p. 13 (2000年11月)
- 「特別企画：審議会『中間報告』をどうみるか 証拠開示」
季刊刑事弁護25号 p. 87 (2001年1月)
- 「接見交通権の実効的保障を実現するために」
季刊刑事弁護26号 p. 16 (2001年4月)
- 「法科大学院における法学教育 とくに刑事訴訟法教育の方法について」
季刊刑事弁護28号 p. 78 (2001年10月)
- 「公判途中に否認に転じた被告人に対し有罪を前提とした弁護人の最終弁論」
季刊刑事弁護50号 p. 62 (2007年4月)
- 「特集 刑事訴訟法の課題 刑事手続における
特殊な『日本の基層』とその変革の課題——本特集の趣旨」
法律時報79巻12号 p. 4 (2007年11月)

「検察改革の課題

——『厚労省元局長無罪事件』に関する最高検察庁の検証報告」

法律時報83巻3号 p. 1 (2011年3月)

分担執筆

* 第九章「裁判への不服申立」1～2を執筆

「1 不服申立手続の基礎理論」

「2 現行刑事訴訟法における上訴」

横山晃一郎編『現代刑事訴訟法入門』

(法律文化社) p. 225, p. 234 (1983年3月)

* 第一編「公判前手続」第二章・第三章を執筆

「第二章 捜査の目的, 方法, そして構造」

「第三章 捜査の主体, 端緒, 捜査関係の発生」

能勢弘之, 大野平吉, 横山晃一郎編

『講義 刑事訴訟法』

(青林書院新社) p. 45, p. 56 (1984年6月)

「既判力」

「判決の当然無効」

「不利益変更の禁止」

井戸田侃, 光藤景皎編『司法試験シリーズ 刑事訴訟法〔新版〕』

[別冊法学セミナー68号]

p. 339, p. 343, p. 351 (1985年6月)

「第3章 身柄拘束・取調べ・防禦権」

「第4章 公訴の提起とその抑制」

村井敏邦編著

大出良知, 川崎英明, 白取祐司, 高田昭正, 新倉修著『現代刑事訴訟法』

(三省堂) p. 103, p. 137 (1990年4月)

「5 住居と身体の両方を搜索場所とする令状の適否」

「8 搜索場所に居る者の所持品検査」

「13 逮捕留置中の被疑者の権利」

村井敏邦, 後藤昭編著『現代令状実務25講』

(日本評論社) p. 36, p. 60, p. 105 (1993年10月)

『刑事弁護』（分担執筆 *担当項目は無記名）

大出良知, 川崎英明, 神山啓史, 岡崎敬編著
(日本評論社) (1993年11月)

「25 違法収集証拠の排除法則」

川端博, 田口守一編『基本問題セミナー 刑事訴訟法』
(一粒社) p. 263 (1994年11月)

「第一編 第3章訴訟能力（第27条～第29条）」

「第二編 第3章公判 第2節証拠 ②自白（第319条）」

「第三編 第3章上告（第405条～第418条）」

「第五編 非常上告（第454条～第460条）」

小田中聰樹, 大出良知, 川崎英明編著
『刑事弁護コンメンタール1 刑事訴訟法』
(現代人文社) p. 21, p. 291, p. 372, p. 415 (1998年1月)

「第3章 身体拘束・取調べ・防衛権」

「第4章 公訴の提起とその抑制」

「第6章 証拠による事実認定」

村井敏邦編著
大出良知, 川崎英明, 白取祐司, 高田昭正, 新倉修著
『現代刑事訴訟法〔第2版〕』
(三省堂) p. 121, p. 163, p. 207 (1998年4月)

「第438条 管轄」

「第439条 再審請求権者」

「第440条 弁護人選任」

「第441条 再審請求の時期」

「第442条 執行停止の効力」

「第443条 再審請求の取下げ」

「第444条 在監者に対する特則」

「第445条 事実の取調べ」

「第446条 請求棄却の決定」

「第447条 同前（請求棄却の決定）」

「第448条 再審開始の決定」

「第449条 請求の競合と請求棄却の決定」

「第450条 即時抗告」

「第451条 再審の審判」

「第452条 不利益変更の禁止」

「第453条 無罪判決の公示」

藤永幸治, 河上和雄, 中山善房編

『大コンメンタル刑事訴訟法 第7巻〔第435条～第506条〕』

(青林書院) p. 98, p. 102, p. 110, p. 115, p. 118, p. 121, p. 125, p. 127,

p. 144, p. 147, p. 153, p. 162, p. 165, p. 170, p. 179, p. 181 (2000年2月)

「第3章 逮捕・勾留」

「第17章 伝聞証拠の概念と同意」

「第18章 伝聞例外 (検察官面前調書)」

「第19章 自白の任意性」

加藤克佳, 川崎英明, 後藤昭, 白取祐司, 高田昭正, 村井敏邦編著

『法科大学院ケースブック 刑事訴訟法』(日本評論社)

〔初版〕 p. 22, p. 171, p. 182, p. 192 (2004年4月)

〔第2版〕 p. 27, p. 185, p. 197, p. 207 (2007年4月)

「第438条 管轄」

「第439条 再審請求権者」

「第440条 弁護人選任」

「第441条 再審請求の時期」

「第442条 執行停止の効力」

「第443条 再審請求の取下げ」

「第444条 被収容者に対する特則」

「第445条 事実の取調べ」

「第446条 請求棄却の決定」

「第447条 同前 (請求棄却の決定)」

「第448条 再審開始の決定」

「第449条 請求の競合と請求棄却の決定」

「第450条 即時抗告」

「第451条 再審の審判」

「第452条 不利益変更の禁止」

「第453条 無罪判決の公示」

河上和雄, 中山善房, 古田佑紀, 原田國男, 河村博, 渡辺咲子編
『大コンメンタル刑事訴訟法〔第2版〕 第10巻〔第435条～第507条〕』
(青林書院) p. 102, p. 106, p. 114, p. 119, p. 123, p. 126, p. 130, p. 132,
p. 150, p. 153, p. 158, p. 168, p. 171, p. 176, p. 185, p. 188 (2013年9月)

翻訳・紹介

「エデュアルト・ドレーヤー記念論文集の紹介(一)」

ハンス・ハインリッヒ・イエシエック『弁護人除斥の比較法的検討』
甲南法学19巻2・3・4号 p. 176 (1979年1月)

トーマス・ヴァイゲント

「被疑者取調べにおける自己決定の保護」
松本博之, 西谷敏編
『現代社会と自己決定権——日独シンポジウム——』
(信山社) p. 198 (1997年5月)

クラウス・バツサーブルク

「カール・ペータース教授と刑事弁護」
季刊刑事弁護17号 p. 10 (1999年1月)

ヴァルター・ペロン

「企業の犯罪に対する刑事責任——個人的責任か集合的責任か——」
松本博之, 西谷敏, 守矢健一編
『団体・組織と法——日独シンポジウム——』
(信山社) p. 261 (2006年9月)

座談会

「刑事訴訟改革の課題と展望」

村井敏邦(司会) = 大出良知 = 川崎英明 = 白取祐司 = 高田昭正 = 福島至 =
上田國廣 = 村岡啓一
法律時報71巻3号 p. 41 (1999年3月)

「最高裁判決を越えて 接見交通のあるべき姿を探る」

高田昭正(司会) = 浅井正 = 上田國廣 = 内田雅敏 = 斎藤利幸 = 村岡啓一
季刊刑事弁護26号 p. 38 (2001年4月)

「犯罪被害者と刑事訴訟——犯罪被害者関連施策の総論的・各論的検討」

浅田和茂 = 川崎英明 = 山下幸夫 = 高田昭正 (司会)

法律時報79巻7号 p. 88 (2007年6月)

「刑事訴訟法の現在と課題——事実認定の過程と主体論」

大出良知 = 四宮啓 = 豊崎七絵 = 中川孝博 = 森下弘 = 高田昭正 (司会)

法律時報79巻12号 p. 6 (2007年11月)

「連続鼎談『新時代の刑事司法制度』を問う 第4回 刑事免責・証人適格」

福島至 = 神洋明 = 高田昭正 (司会)

法律時報86巻1号 p. 72 (2014年1月)

「【鼎談】刑事免責・証人適格」

福島至 = 神洋明 = 高田昭正 (司会)

川崎英明, 三島聡編著

『刑事司法改革とは何か 法制審議会特別部会「要綱」の批判的検討』

(現代人文社) p. 131 (2014年9月)

「『季刊刑事弁護』創刊100号と刑事弁護 評価と課題」

上田國廣 = 神山啓史 = 川崎英明 = 久保有希子 = 後藤昭 =

白取祐司 = 高田昭正 = 高山巖 = 村岡啓一 = 森下弘 = 大出良知 (司会)

季刊刑事弁護100号 p. 72 (2019年10月)

「共同研究の展開とその意義 実践と理論の架け橋を目指して」

川崎英明 = 白取祐司 = 高田昭正 = 大出良知 (司会)

石田倫識, 伊藤陸, 斎藤司, 関口和徳, 渕野貴生編集委員

『大出良知・高田昭正・川崎英明・白鳥祐司先生古稀祝賀論文集

刑事法学と刑事弁護の協働と展望』

(現代人文社) p. 878 (2020年12月)

報 告

「再審と証拠構造分析」

刑法雑誌35巻3号 p. 155 (1996年5月)

「刑事訴訟」

刑法雑誌36巻3号 p. 129 (1997年4月)

「救済の観点からみた証明論 (コメント)

——間接事実による証明における推理・推論——」

刑法雑誌39巻2号 p. 144 (2000年2月)